ごみの減量化とリサイクル

一人一人が正しい分別を心掛けて

大量のごみを処理する成田富里いずみ清掃工場

可燃ごみを処理する成田富里いずみ清掃工場には、毎日多くのごみが搬入されていますが、その中にはリサイクルできる資源物なども含まれています。ごみを減らすために、一人一人が正しい分別を心掛けましょう。

本市のごみの現状

成田富里いずみ清掃工場では、本市と富里市で発生した可燃ごみを処理しています。

令和元年度には約6万1、000トンのごみが搬入されていましたが、近年減少していて、令和5年度には約5万4、000トンとなりました(図1)。

ごみの減量化をさらに推進するため、正しい分別にご協力をお願いします。

全国平均よりも多いごみ排出量

令和5年度に市内から出たごみを、市民1人1日当たりに換算すると約981グラムでした。令和元年度からの推移をみると減少傾向にありますが、国や県と比較すると依然として高い水準になっています。令和4年度の県との比較では、約110グラム(おにぎり1個分)多い排出量となっています(図2)。

可燃ごみの内訳

令和5年度に成田富里いずみ清掃工場に搬入された可燃ごみの内訳は図3の通りです。

本来は資源物である紙・布類が、全体の半分近くを占めています。また、3割近くを占めるビニール・ゴム・皮革類の中にもリサイクルできるプラスチック製容器包装が含まれています。

このように、多くの資源物がリサイクルされずに処理されてしまっていることが分かります。

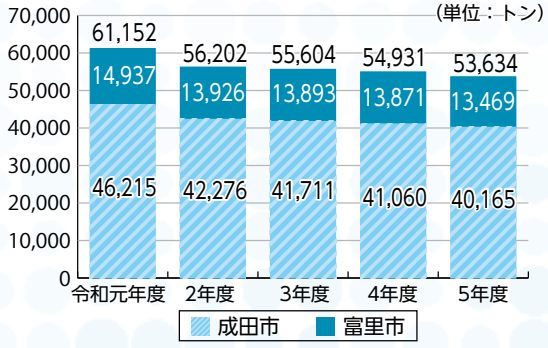
この現状を変えるために、一人一人がごみと資源物を正しく分別し、ごみの量をさらに減らすように心掛けることが大切です。

一人一人ができること

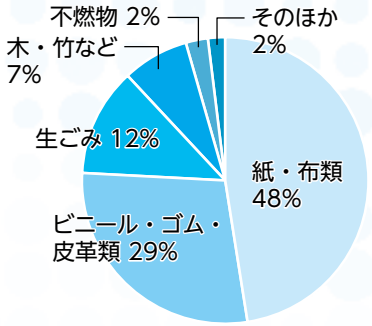
雑がみの回収にご協力を

雑がみとは、お菓子の箱や包装紙、封筒、はがきなど、リサイクルできる紙類のことをいいます。細かい物が多く、可燃ごみとして

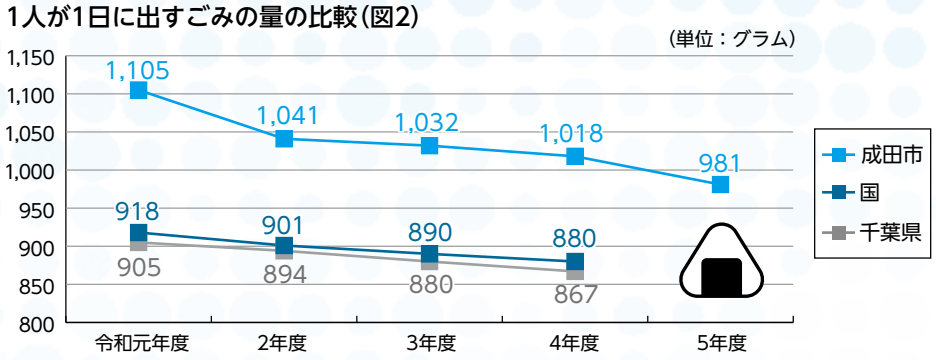
成田富里いずみ清掃工場への搬入量(図1)



令和5年度の可燃ごみの内訳（図3）



1人が1日に出すごみの量の比較（図2）



捨ててしまいがちですが、分別すればリサイクルできる大切な資源です。

雑がみを出す時は、紙袋に入れ、ひもで紙袋の上から十文字に縛ってください。

なお、シュレッダー古紙のみの場合は、透明なビニール袋に入れて出すことができます。

プラスチック製容器包装も正しく分別を

市では、プラマークのあるプラスチック製容器包装を、リサイクルできる資源物として週に1回収集しています。白色の指定袋に入れて、収集日に出してください。

プラマークを確認して、きれいに洗う

資源物として回収できる物には、プラマークが付いています。ごみとして捨ててしまう前に確認しましょう。プラスチックのバケツや歯ブラシなど、品物そのものがプラスチック製である場合は、可燃ごみとして出してください。

汚れや油の付いた物はリサイクルできませんので、指定袋に入れる前に、きれいに洗い流してください。汚れや油が落としきれない場合は、可燃ごみとして出してください。

減らそう生ごみ・食品ロス

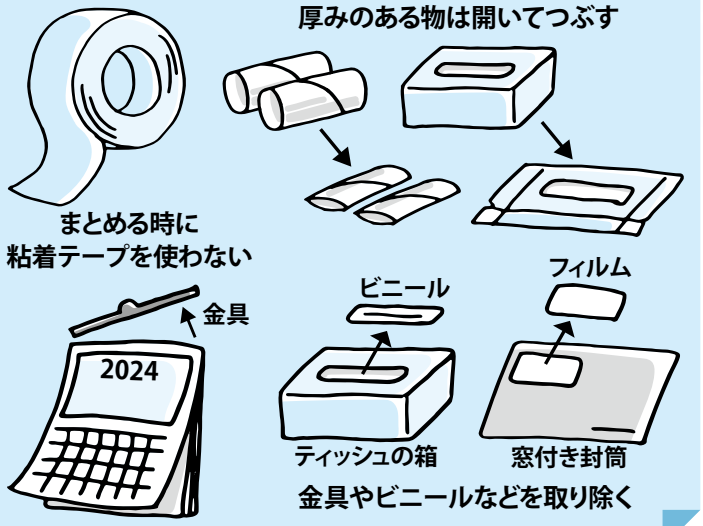
生ごみや食品ロスを減らすため「使いきり・食べきり・水きり」を行う「3きり運動」を意識しましょう。食材は使い切る・食べ切る、生ごみは出す前に水をよく切る、といった工夫で生ごみを減らすことができます。

市では、生ごみを減量し、堆肥化する器具を購入する世帯に対して、その設置にかかる費用の一部を補助しています。

購入する前に申請が必要です。申請方法などの詳細は市ホームページ（https://www.city.narita.chiba.jp/kurashi/page11580.html）で確認してください。

※くわしくはクリーン推進課（☎20-1530）へ。

雑がみを出す時の注意点



プラスチック製容器包装の分別例